

(メッセ海外通信 2011年7→9月号掲載記事)

～震災後の訪日中国人観光客誘致に向けて～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
澤淵 史恵

今回は3月11日の東日本大震災及びそれに伴う原発事故が中国人観光客誘致に与える影響についてレポートします。

東日本大震災発生直後、中国政府は日本への渡航自粛を呼びかけ、団体旅行ビザの発給を停止していました。このため、それまで右肩上がりに増え続けていた訪日中国人観光客数が一転、急激な減少に転じました。しかしその後、5月21日に温家宝首相が日中韓3カ国首脳会談出席のために来日し、これに併せて首相自らが被災地を見舞われることとなり、これに前後して訪日ツアーが本格的に再開することとなりました。6月18日には、震災後初となる青島市から下関市への観光視察団も到着しています



青島市からの観光視察団の様子

このように、訪日中国人観光客についてようやく回復の兆しが見えてきたところですが、実際には、震災後の訪日ツアー参加者のほとんどが、旅行関係者等の日本事情に精通した人々であると言われています。というのも、震災後、中国国内の報道各社はこぞって日本で起こった地震、津波そして原発事故の悲惨な状況を連日にわたって報道し、その結果、中国人民の多くが、いまだ日本は危険であるという認識を持っており、訪日旅行を回避する傾向にあるからです。中国においては、日本のどの地域だと被災地から離れ、その影響を受けないのかを認識するには情報が不足しており、訪日ツアーのV字回復となるには、まだまだ厳しい状況にあると言えます。

しかしながら中国では、こうした報道により日本へのマイナスイメージが広がる一方で、今回の震災の報道を通じて、対日感情の好転化現象が起こっています。中国人からは、「日本はこれだけの大震災に見舞われながらも、自宅へ帰るにも、公衆電話を使うにも列を作り、ごみを散らかすこともない。日本人は非常時にも冷静で秩序と礼節を守る国民である。」として称賛の声が上がっています。また、日本を訪れたことのある中国人は、「日本へ到着して一度も靴を拭いていない。日本は街も人も言葉も何もかもが“清潔”だ。」と言います。こうしたことから、この素晴らしい日本を子供達に見せたいと言う中国人も少なくありません。

原発事故などの海外へ広がる風評が、日本の観光業界に大変な打撃を与えている一方で、中国人の対日感情が好転傾向にある今、訪日中国人観光客誘致政策の進退は、今後いかに安全で元気な日本をアピールできるかにかかっているとと言えます。